

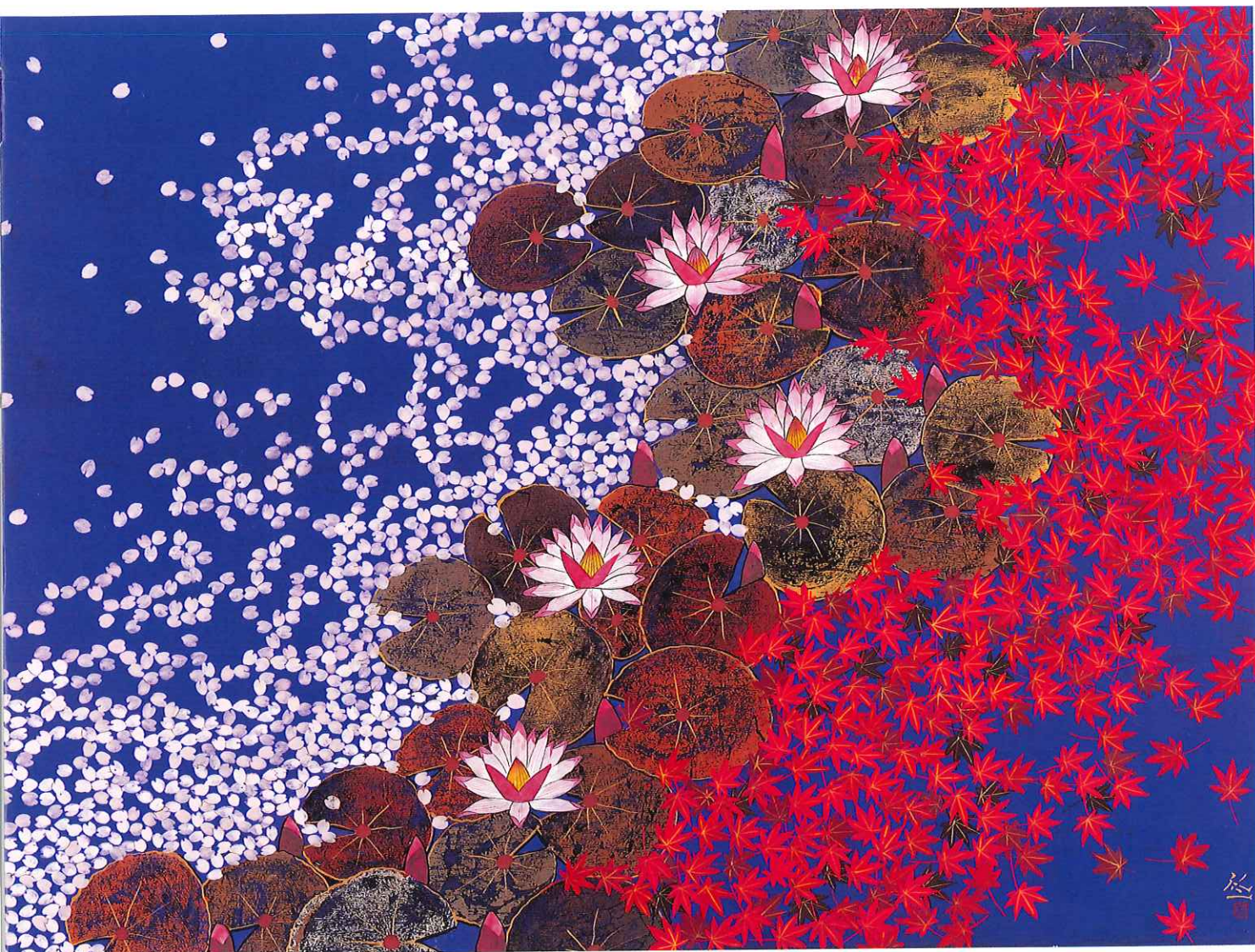
# 睡蓮

S U I R E N

愛知大学  
教育研究支援財団  
広報誌

06

2019 / 4



## 巻頭特集【知の対話】

2027年のリニア開通に向け、変わりゆく名古屋駅周辺。  
「国際歓迎・交流拠点」ささしまの役割もいよいよ大きく。

JICA(国際協力機構)  
中部センター  
所長(2019年3月取材時)

阪倉 章治

愛知大学  
国際コミュニケーション学部4年  
(2019年3月取材時)

野田 あかり

名古屋駅周辺まちづくり推進  
懇談会メンバー  
金城学院大学 国際情報学部教授

佐藤 久美

愛知大学  
現代中国学部3年  
(2019年3月取材時)

山下 謙一

## Professional Eye

料理で人と人をつなぎ、  
食の都あいちの魅力を伝えたい。

料理人

長田 勇久



知で 活 き る 人 へ。

公益財団法人 愛知大学  
教育研究支援財団

AICHI UNIVERSITY EDUCATION RESEARCH SUPPORT FOUNDATION



## Contents

### [知の対話]

2027年のリニア開通に向け  
変わりゆく名古屋駅周辺  
「国際歓迎・交流拠点」ささしまの  
役割もいよいよ大きく

p.03

### [Professional Eye]

料理で人と人をつなぎ  
食の都あいちの魅力を伝えたい

料理人 長田 勇久

p.08

### [AERSの一年]

#### 【海外活動の支援】

グローバル活動

p.11

#### 【教育活動の支援】

学術講演会等

p.12

寄贈品の紹介

p.13

奨学金・奨励賞授与等

p.14

### [寄附金名簿]

p.15

#### 「睡蓮」について (題字「睡蓮」平松 礼二氏 筆)

愛知大学の教育思想は、国際社会や地域社会のリーダーとなり、世界をダイナミックに動かす人材を育てること。睡蓮の花言葉には、そのような人材に必要な「清純な心」「純粋」「優しさ」「信頼」の意味が含まれており、彼らの未来を支える愛知大学教育研究支援財団の情報発信誌を「睡蓮」と名付けました。

#### 表紙のご紹介

平松 礼二氏 作  
「睡蓮春夏ジャポン」  
(2003年)

モネが浮世絵に恋をして、浮世絵の国の私がモネに恋をして、美はつながり、睡蓮の池に日本の春秋が生まれました。



## ごあいさつ

日頃、公益財団法人「愛知大学教育研究支援財団」の活動に、多大なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

戦前、中国・上海において、アジアで活躍する国際人を養成し、特に日中関係に貢献する人材の育成を目的に、海外に設けられた日本の高等教育機関であり、最も古い歴史をもつ名門・東亜同文書院大学。敗戦による閉校後、最後の学長であった本間喜一氏らが、「世界文化と平和に寄与すべき新日本の建設に適する国際的教養と視野を持つ人材の育成」を建学の精神とし、新設した大学が「愛知大学」であることから、東亜同文書院は愛知大学の祖といえるでしょう。愛知大学が開学から73年間で15万余の、そして今もグローバルな社会に毎年、優秀な人材を輩出し続けていることはこの精神が脈脈と継承されている証でもあります。また、2011年には社会に求められるより優秀な人材を育成するキャリア形成支援、学生の自立心を高め、積極的なチャレンジを促す課題解決型の正課外プログラム(ラーニングプラス)や海外フィールドスタディなどを拡充するため、名古屋駅前に新キャンパスを開設。東亜同文書院の理念実現のため、日々、愛知大学は進化し続けています。

しかし、時代はアジアを取り巻く情勢の変化や猛スピードで開発されるAIなどの先端技術により、大きな変革の只中にあり、大学と学生を取り巻く環境もめまぐるしく変化し続けています。このような不透明な時代に、愛知大学及び愛知大学生の教育研究活動への支援を行うため、2012年11月公益財団法人「愛知大学教育研究支援財団」が設立されました。

本財団が学術研究助成、課外活動支援、奨学金制度、キャリア形成支援をはじめとする諸事業を積極的に推進することができましたのも、この趣旨にご理解とご賛同をいただいております同窓会、後援会をはじめ、広く一般企業、個人の方からのご厚情の賜物でございます。そこで、今回、賛助会員様をはじめとする皆様に当財団の事業内容をご報告し、成果を共有いただきたく、「睡蓮第6号」を送らせていただきます。ぜひ、ご高覧いただき、これからも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

公益財団法人  
愛知大学教育研究支援財団

加藤 満憲



#### 評議員・理事名簿(2019年4月現在)

|     |        |       |             |
|-----|--------|-------|-------------|
| 評議員 | 地主 道夫  | 理事    | 加藤 満憲(理事長)  |
|     | 近藤 薫   |       | 酒井 強次(常務理事) |
|     | 石川 健次  |       | 長谷川 信義      |
|     | 西原 健二  |       | 古川 為之       |
|     | 八木 好郎  |       | 那須 真理子      |
|     | 堀田 久富  |       | 柘植 繁久       |
|     | 杉本 みさ紀 |       | 土井 義昭       |
|     | 金田 学   |       | 山田 哲也       |
|     | 竹本 智洋  |       | 平井 治彦       |
|     | 佐々木 康司 |       | 唐 啓山        |
|     | 砂山 幸雄  |       | 田本 健一       |
|     | 渡津 英一郎 |       | 近藤 智彦       |
|     | 吉本 理沙  |       | 功刀 由紀子      |
|     | 監事     | 兵藤 文男 |             |
|     |        | 南 成   |             |





巻頭特集

# 知の対話

JICA(国際協力機構)  
中部センター  
所長(2019年3月取材時)

阪倉 章治

愛知大学  
国際コミュニケーション学部4年  
(2019年3月取材時)

野田 あかり

名古屋駅周辺まちづくり推進  
懇談会メンバー  
金城学院大学  
国際情報学部教授

佐藤 久美

愛知大学  
現代中国学部3年  
(2019年3月取材時)

山下 謙一

## 2027年のリニア開通に向け、変わりゆく名古屋駅周辺。 「国際歓迎・交流拠点」ささしまの役割もいよいよ大きく。

2027年、品川－名古屋間が開通する予定のリニア中央新幹線。その開通に向け、今、名古屋駅周辺ではさまざまな再開発計画が進展しています。愛知大学名古屋キャンパスのある「ささしまライブ」も、名古屋市の「国際歓迎・交流拠点」として開発が進むエリア。一昨年10月には、予定された施設がほぼ揃い「まちびらき」が行われ、また昨年9月には、これまでJR関西線などによって分断されていた名古屋駅西地区との間に、線路の地下をくぐる車道「アンダーパス」も開通し、いよいよ形が整ってきました。そこで、名古屋駅周辺のまちづくりに有識者として関わり、また、ささしまライブに拠点を置いて国際協力の事業を進めるお二方をお招きし、愛知大学の学生二人も交え、名古屋駅周辺とささしまライブの過去、現在、未来について語っていただきました。



## 外国人の視点で見ると 地元の人間が気づかない 魅力が見えてくる

佐藤／私は1986年から20年以上、名古屋を発信地とする外国人向け英文雑誌の発行に携わってきました。記事を書いてくれているのは、日本を愛する中部地域に在住する外国人。編集会議や取材時に彼らと話していると、名古屋生まれの私も気づかなかった街の魅力がたくさん見えてきました。そんな中、1995年1月に阪神・淡路大震災が発生し、私もアメリカ人記者とともに現地取材に向かいました。経験したことのない災害に遭い、情報を求めて戸惑う多くの在留外国人がいたことを知りました。情報発信の仕事に携わる以上、緊急時にこそ情報提供が必要ではないかと考え、名古屋大学大学院に入り、あらためて多文化共生時代の情報発信の必要性や方

策について学びました。そんなふうな仕事と学生生活を続けておりましたが、2005年の愛知万博では、映画制作の仕事にも携わりました。世界21カ国から映画監督とカメラマンを招聘し、愛知県各地でホームステイをしながら万博時の交流をテーマにした映画を完成させてもらうという、フレンドシップ映画祭のプロデューサーを務めたんです。その時もやはり、外国人の目から見た日本の魅力を再確認できましたし、映画を通しての世界への発信ができました。学位を取り、大学で教えるようになってからも、中部各地のまちづくり構想委員会などで意見を述べさせて頂いているのは、そうした私の経験が基礎としてあります。

阪倉／私も名古屋生まれなんですが、大学で東京へ出て、卒業後現在のJICAに入り、それ以降は東京か、スペイン、ブラジルなど海外数カ国で仕事をしてきました。そして2年前、JICA中部センターの所長として生

まれ故郷に戻ってきたわけです。JICA中部は、全国14カ所ある地方センターの中でも「人の集まるセンター」と言われています。それは、ひとつには途上国の人たちがものづくりのメッカとも言えるこの地方で学ぼうと、視察や研修に訪れるからです。もちろん自動車産業などもその対象となるのですが、伝統産業の存在も大きい。たとえば一宮などの繊維産業。国内ではかつての盛り上がりはなくなっているものの、途上国ではその技術が重宝される。いきなりハイテク産業を興すより、国民の暮らしを支える産業の振興が課題となっているわけですから。このささしまライブにあるJICA中部の建物も、上階はそうした方々の宿泊施設になっていて、途上国からやってきた多くの人が、日本での生活を送っています。ささしまライブの開発コンセプトは「国際歓迎・交流拠点」であるわけですが、そうした意味ではJICAがまさにその役割の多くを担っていると思っています。

## 名古屋の魅力を知ってもらうために、 情報発信できるまちづくりを。



イベントディレクター  
佐藤久美  
2018年度「あいち国際女性映画祭」  
記者発表会にて

名古屋駅周辺まちづくり推進懇談会メンバー  
金城学院大学 国際情報学部教授

### 佐藤 久美

長年、名古屋を発信地とする英文情報誌「アベニューズ」の編集長・発行人を務め、現在は、大学で教鞭をとる傍ら、まちづくりを始め、文化振興の事業等にも様々な形で関わり、「あいち国際女性映画祭」イベントディレクター等を務めている。



## 世界に誇るべき歴史・文化と それに反する シビック・プライドの低さ

野田／愛知大学には「ラーニングプラス」という提案型教育プログラムがあって、その中で中部運輸局が中心に進めるインバウンド観光開発構想「昇龍道プロジェクト」に学生たちが提案するという課題があるんです。私たちのグループは、2年前のプレゼンで「名古屋駅周辺のインバウンド観光」をテーマに研究発表し、賞をいただきました。その時調べてわかったのは、名古屋に来る外国人観光客は通過型というか、名古屋に宿泊してもすぐに外の観光地に出て行くんです。そこで私たちは「名古屋の朝」に注目しました。たとえば名古屋駅の近くには、朝から営業している銭湯がある。また、駅近くの柳橋中央市場では、朝早くから店が開き、マグロの解体ショーなども行われている。そうした外国人が興味を持ちそうな情報をわかりやすく集約したカードをつくり、それをツールとしてホテルなどに置いてもらって、その活動をレポートにまとめて発表したんです。

佐藤／それは面白そうですね。



阪倉／ええ、大事なことですよね。

野田／はい、そう思うんですが、その活動を通して感じたのは、名古屋の人のシビック・プライドの低さ。自分の街にあまり誇りを持っていない。

山下／「名古屋なんて見るもんもあらへんがね」とか、自分から言っちゃったり。

佐藤／ふふ、そうですね。でもそれは裏を返せば、ゆとりがあるからだと思うんですよ。あえて声高に宣伝しなくても、豊かな生活が成り立っていることの表れじゃないかしら。でも、外国人の目から見ればいいものはいっぱいあるのに、もったいないですよ。

阪倉／私は千種区に住んでいるんですが、近くに「城山神社」という神社があります。なぜ「城山」かというと、織田信長の父、信秀の居城、末盛城の城跡だから。小さな町なら大々的な観光資源となるそんな史跡が町々にひっそりあるのが名古屋という街です。信長、秀吉、家康という戦国の英雄たちが活躍した地なのだから、そういう個別の情報を、もっと前に出していく方がいいですね。一方で、近代になってからの産業的発展も、途上国の人には見るべきものがたくさんある。面白いところでは、名古屋の交通運輸。たとえばここからも近い名鉄のバスセンターは、日本で最初にできた立体型バスターミナルなんです。その構造や運用ノウハウは、バス網の充実を急ぐ途上国には極めて有効なものとなる。昨年来日したタイの運輸大臣も、視察先として「名鉄バスセンター」を選びました。それに名古屋が早い時期から始めたバス優先レーンなども、各国で施策化されていて、その前には必ずという



JICA(国際協力機構) 中部センター 所長

## 阪倉 章治

国際協力機構、海外経済協力基金、国際協力銀行で、約30年円借款事業に関わり、東南アジアや中南米の鉄道、港湾、道路建設等のプロジェクトに従事。東京本部のほか、ブラジル、ペルー等の海外勤務の後、2016年より現職となり、多様な国際協力事業等を指揮している。



体験ゾーン、食のゾーン、買い物ゾーンを備えた「なごや地球ひろば」

# 海外ボランティアへの積極さからも、名古屋が閉鎖的とは考えていません。

ほど名古屋に視察に来ています。観光という側面ではないけれど、現在でも名古屋は世界の注目を集めているんです。そういう意味でも名古屋の人はこの街にもっと誇りを持っていいし、名古屋のまちづくりにも活かしていくべきだと思っています。

野田／名古屋の魅力を知ってもらおう上でシビック・プライドの問題とともに、「名古屋人の閉鎖性」ということもよく言われると思

うんですが。

阪倉／ええ。商習慣的には地元の慣わしにこだわって、外から来た人には商売がやりにくいという面はたしかにある。でも、われわれの事業のひとつである海外ボランティアに応募し、海外に行く人の数を見ると、愛知県は大阪を越え、東京に次ぐ位置を占めています。人口比率から見ても、この地方が閉鎖的だとは言えないと思っています。

佐藤／いわゆる「青年海外協力隊」のことですね。

阪倉／はい。それに最近では、40歳から69歳を対象としたシニアボランティアの制度もあります。この地方には工場生活何十年というような技術を持った方も多く、リタイア後数年を途上国で過ごし、その技術を伝え、産業発展に貢献してくださっているんです。あと、青年海外協力隊でいえば女性の応募が多いのもこの地方の特徴です。





佐藤／就職活動などでも、今は名古屋を出て東京に行こうという学生は女子に多い。そこには、女性が活躍できる風土がこの地方の企業には少ない、あってもあまり広報されていないという側面もあるでしょうね。

阪倉／たしかに。企業人の集まりなどに出てもジェンダーバランスの悪さを感じます。国際的な都市になっていくためにも、もっと女性の登用に積極的になる必要はあるでしょう。

## ささしまの歴史を踏まえ、 魅力ある国際交流のまちへ

山下／僕は今、略称「愛マネ」というサークルの代表をやっています。これは、1年の時受けた総合科目16という講義がきっかけになってできたサークルで、

正式名は「愛知大学エリマネ委員会」といいます。その講義はエリマネプロジェクト、つまり「まちづくり」を中心に各界で活躍している方の話を聞くというものだっ

たんですが、最後に「ささしま地区を盛り上げるためのイベント」という課題の発表授業があって、その時、コーディネーターを勤めてくださった前学長の佐藤元彦先生

# まちづくりの視点を持てたことは大きな財産。 これからも、ささしまを盛り上げていきたい。

から、「これだけで終わってしまうのはもったいないから、サークルをつくってみたら」という提案をいただいたんです。それで2年前の4月に有志でサークルを

発足。その年の10月には、ささしまライブの「まちびらき」イベントがあり、それにさまざまな企画を持って参加しました。僕は現代中国学部なので、中国ブースを

担当。愛大の二胡部に二胡の演奏をしてもらったり、中国武術部に演武をしてもらったりしました。隣にある中京テレビさんが生放送の中で取り上げたこともあり、予想以上の人を集めることができたんです。それ以降もささしまエリアを盛り上げるためにさまざまな活動をしています。

佐藤／じゃあ、ささしまの歴史もいろいろ勉強しましたか？

山下／はい。じつはそれまで、この地区については「ポケモンパーク」のイメージしかなかったんです。ちょうど「ポケモン」にハマっていた小学生の時「愛・地球博」のサテライト会場として、それが開催されていたので。

野田／私もそうです。あとは、サーカスのイメージ。よくここでテント掛けの公演をしていましたから。

愛知大学  
国際コミュニケーション学部4年

## 野田 あかり

2017年「昇竜道プロジェクト」への提案で、外国人観光客向けの情報カードなどの提案が評価され優秀賞を受賞。この4月からは地元食品メーカーへの就職が決まっている。



昇竜道コンテストに仲間と挑戦し優勝



愛知大学 現代中国学部3年

## 山下 謙一

名古屋駅を中心としたその周辺地域のまちづくりに関する「総合科目16」の授業を履修。その授業を契機に「ささしま地区を盛り上げたい」という思いを持った有志が集まり、2017年4月「愛マネ」サークルが正式に発足。2018年度は代表を務める。



愛マネでメンバーと意見を出し合う活動風景





山下／今の高校生などにとっては、映画館とライブハウスの街ですすね。でも歴史を勉強して、ここがかつて巨大な物流ターミナルだったことを知りました。大きな貨物駅があり、中川運河の終点でもあり、日本や世界から多くの荷物がここに集まって積み替えられ、全国へ世界へと送り出されていた。それに驚きました。実際、この地域を歩いて観察すると、わずかながら名残もあります。貨物駅のレールが残っていたり。

阪倉／ささしまライブのコンセプトにはそんな歴史も活かされているんですよ。貨物ではないけれど、名古屋をはじめ世界中の文化がここに集まり、発信されていく場所。核になっているビルが「グローバルゲート」という名称なのも、そんなコンセプトからですすね。

山下／ええ、僕たちもそうした歴史を踏まえて活動していこうと思っています。最近では、オーバーパス※を超えたところにある米野学区の老人会と連携して、この地域の昔の話を発掘して、SNSで発信したりしています。

※オーバーパス(正式名「ささしま米野歩道橋」):JR関西線、近鉄名古屋線、あおなみ線をまたぎ、ささしま名古屋駅西地区を結ぶ跨線橋。地下を通る車道「アンダーパス」に対して、こう呼ばれる。

## ここを舞台にする企業・団体がさらに連携を深め魅力あるまちづくりを

佐藤／現在、委員の一人として参加している「名古屋駅周辺まちづくり推進懇談会」で私が提案しているのは、「祭りとからくりで世界の人々を迎えよう!」ということです。リニア新幹線の開通時に完成が予定されている名古屋駅駅前広場ですが、この空間で日本の心が詰まった祭りを披露しようという提案です。実は、名古屋駅のすぐ東側には、江戸時代に制作されたからくり人形のついた素晴らしい山車が三輛あって、毎年秋には山車まつりが開催されています。駅前の高層ビルの間を曳航され、夜には名古屋国際センタービル近くの花車神明社で勢揃いしてからくり奉納を行います。

2016年に日本が誇る33の祭礼「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されましたが、そのうち、実に五つの行事が愛知県で行われているものです。それだけある県は他にない。各地域の文化の粋を結集して、地域の人たちが一体となって行う伝統的な祭礼には、人々の思いが詰まっています。山車には、何世紀も維持されてきた、木工・金工・漆・染色などの伝統工芸技術が生きています。この地域の産業技術の源流は、伝統的な江戸からくりの技芸を駆使した山車からくり祭りにあるとされています。もし、この提案が実現すれば、名古屋圏のものづくりDNAを発信できる素晴らしい場所になることでしょう。世界の玄関口となる名古屋駅の駅前で、お祭りの時はもちろんですが、例えば世界の要人が名古屋を訪れた時にもからくり奉納でお迎えできれば、素敵なお交流も生まれると思いませんか?想像しただけでもワクワクしてきます。

阪倉／ささしまについて言えば、ひとつには、もっと憩いの場としての雰囲気してほしいですね。中川運河は名古屋港や伊勢湾につながるウォーターフロントでもあるのだから、周辺に洒落たカフェなどがあれば、たとえばJICAに滞在する外国人もそこを散策するようになる。国際的な街としての雰囲気もできていくと思うんです。

佐藤／それに、そんな水辺を活かすためにも、もう少し緑があってもいいですよ。

阪倉／ええ、そう思います。あとひとつ大事なのは、ここに集まった企業や店舗、

さまざまな施設がさらに連携を深めていくということ。JICAとしても、そのために各企業・団体間の連携を模索しています。たとえば、先ほど話に出ていた「まちびらき」の時には、さかなクンを呼んで講演会をしました。多くの層に人気のある彼ですから、JICAの施設ではとても収容できないだろうと、愛大のコンベンションホールを借りて。また109シネマズでドクターヘリの活躍を描いた『コード・ブルー』という映画が公開された時には、連携して、類似した活動である国際緊急援助隊を紹介するパネル展なども開催しました。東宝さんにも頼んで、主演した山下智久さんが着た衣装なども展示したので若い山下ファンの女性たちが映画を見たあと、たくさん来てくれました。

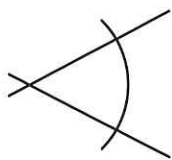
佐藤／これまでは縁の下の力持ち的なイメージが強かったJICAさんも、これからはもっと積極的に広報していこう?

阪倉／ええ、そのためにもささしまライブという立地を活用していきたいですね。現在も、中京テレビさんやグローバルゲートに入ったユニーさんと連携の話を進めています。もちろん愛大とも連携協定を結んでいますから、学術的なことだけでなく学生さんたちとも積極的に関わっていきたいと思います。その意見をまちづくりに反映したり、あるいはイベントなどにも協力してもらったり。なにしろ、この昼間人口の半分くらいは愛大の学生さんたちが占めているわけですからね。

山下／待ってますから、いつでも声を掛けてください。







Professional Eye



featuring

料理人

# 長田 勇 久

愛知大学法経学部経営学科 昭和63年卒

ここでしか食べられない料理を。  
地元の食を学び辿り着いた  
逆転の発想。

実家が飲食店を営んでいることもあり、漠然と「いつかは店を継がなければならない」と考えていた長田さん。この道に進もうと決めたのは愛知大学時代の経験だったという。「夏季休暇などを利用

おさだ はやひさ

愛知県碧南市生まれ。愛知大学卒業後、東京「つきぢ田村」にて6年余り料理修行後、父の営む「日本料理 小伴天」に入社。現在、有限会社小伴天代表取締役社長、日本料理一灯店主。地元はもちろん、全国や海外に「和食」「愛知の食」を伝えるとともに「地産地消」「食育」の啓蒙にも注力。メディアにも多数出演し、幅広く活動している。愛知大学オープンカレッジ講師。和食文化国民会議幹事。新調理技術協議会理事。

して、寝袋を背負ってバイクで全国を旅しました。そこで出会った人たちのコミュニケーションの中心にあったのは“食”だったんです。無料宿泊所などで地元の人たちと現地の料理や酒を酌み交わす中で、「料理は人と人をつなげるツールなんだ」と実感した。愛知大学を卒業後、東京の一流と呼ばれる料亭で6年間修行を積み凱旋帰郷したある日、常連のお客様から「上得意さんを連れてくるから最高の料理を出してほしい。献立はすべてお任せする」と言われた。これは大きなチャンスだと、修業先で学んだすべてを出し切った。お客様から「おいしかった」とお褒めいただき胸を



# 料理で人と人をつなぎ、 食の都あいちの魅力を 伝えたい。



「小伴天はなれ 日本料理 一灯」碧南市作塚町1-16

撫で下ろした直後、続けられた言葉に頭を殴られたような衝撃を受けた。「でもこれって東京でも食べられる料理だね」。長田さんが当時を振り返る。「ちょうどバブル期で修業先が大盛況だったこともあり、自分が一人前になったような気になっていたんですね。東京の料理を出しておけば誰からも喜ばれると勘違いしていたんです」。その後自問自答する中で脳裏によぎったのは、学生時代の旅だった。「私が旅行先で食べたかったのは、そこでしか食べられない地元の料理だったことを思い出したんです。山奥の温泉で新鮮な刺身を食べたいとは思わないのと同じですよ」。同時に、地元である碧南の食について何も知らない自分に気づいた。八丁味噌や三河みりんといった地元の調味料の蔵元や、野菜の生産者などを軒並み訪問し、自身の肌でその魅力を体感した。「とにかくすべてが興味深いお話でした。生産者の方々と交流するうち食材への愛着がわき、これらをどうにかPRできないかと考えるようになったんです」。その想いから生まれたのが、献立に合わせ

て食材を選ぶのではなく、魅力的な食材をどうしたら活かせるのかを考えて献立に落とし込むという逆転の発想だった。

失われゆく和食文化。  
その継承こそ  
和食料理人としての使命だ。

多くの生産者たちとのつながりが増える中、あるきっかけで愛知大学からオープンカレッジでの講座依頼が舞い込んだ。生産者を招いて講義をしてもらい、長田さんがその食材を使った弁当を参加者に振るまうという講座は今年で12年目を数える。農家・漁業関係・酒造・調味料製造などを営む上場企業から家族経営規模まで、120人もの幅広い生産者の講義に長田さん自身も



大きな刺激を受けているという。長田さんの活動はそれだけにとどまらない。「愛知県は全国でも有数の野菜生産地なんです。碧南市にも『碧南鮮紅五寸』というニンジンがあり、愛知の伝統野菜のひとつとして数えられています。それらを守っていくことも大切なことです」。野菜の品種改良が進み、甘く食べやすくなる一方で、野菜本来の味が失われしうことに危機感を抱いた長田さんは、「あいち在来種保存会」の創設者であり代表世話人の高木幹夫氏の協力のもと「伝統野菜を食べる会」を運営している。ほかに、多彩なジャンルのシェフがつくる料理が楽しめる「旬感in知多半島」や、碧南市と醤油メーカーとでタッグを組んで地元の小学校で出前授業を開講するなど、食文化を通じた地元貢献活動を意欲的に行っている。こうしたさまざまな活動が評価され、昨年農林水産大臣賞個人部門の第1号を受賞した長田さん。近年特に感じるのは、食文化の変化だという。「私たちの世代は、母親の味＝肉じゃがなどの和食でした。今はまちにファミリーレストランやファストフードがあふれ、特に子どもたちにとって、和食は好きな食事ではなくなってしまうのではないか」。ややもすると、次の世代にはふるさとの味が和食ではなくなってしまうかもしれない。換言すれば、日本人としての記憶のひとつが失われてしまうかもしれないということだ。「和食文化の継承は、和食料理人としての私の使命だと考えています」。真っ直ぐな眼差しが、想いの強さを物語っていた。



食文化を通じた地元貢献活動などが高く評価され、2018年に「農林水産大臣賞 個人部門第1号」を受賞。



地元で丁寧に作られた調味料たち。地域の宝であるこれらの調味料は「日本料理 一灯」の味付けには欠かせない。

料理で地元之恩返しをしたい。  
まずは自分が輝くこと。  
そしてその輪を広げること。

2013年、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」。和食店はいまや世界で約12万軒にのぼり、世界的な人気を博していることは周知の通りだ。和食といえば、油をあまり使わずヘルシーで、栄養バランスに優れているというイメージを抱く人が多いかもしれないが、長田さんは和食の魅力は別のところにあるという。「おせち料理や七草粥など、日本の四季や行事に即しているのが和食です。祝事や神事にも深く関係しており、いわば和食は日本文化そのものといえます」。文化遺産となった和食の保護・継承を行う、一般社団法人和食文化国民会議の幹事も務める長田さんならではの視点だ。これほどまでに彼を意欲的に突き動かす原動力は、何だろうか。「阪神淡路大震災で支援物資の運搬作業ボランティアをしたとき、ある人に『あなたには料理という特技があるのだから、それを活かすべきだ』と教えられたんです」。自分の得意分野でなら、もっと人の役に立てるのではないかと、料理で今までお世話になった地元之恩返しができるのではないかと。今日の長田さんを形作る原点にあるのは、その想いだ。「愛知県は食の都といってもいいくらい豊かな食材に恵まれた土地なんです。まずそれをみなさんに認知していただきたい。そして愛知県に暮らす一人ひとりに誇りを持ってほしい。我々のような食に関わる人たちがそれぞれ輝いてつながり、集まることができたなら、まちを照らす大きな灯りになれると思うんです。それが私の夢です」。店名の由来となった最澄の言葉「一燈照隅萬灯照国」。ひとつの灯火だけでは隅しか照らせないが、その灯火が万になれば国全体を照らすことができるという意味だ。長田さんの料理には、最大限に引き出された食材や調味料の旨味はもちろん、それを生産する人たちのこだわりや想いも込められている。この店に来る人々は、その料理に満たされると同時に、長田さんから小さくとも確かな灯りを宿されることだろう。その灯りの輪がまち全体を照らす日は、そう遠い先ではない。





# AERSの一年

(アース)

明日の地域社会に貢献する人材を育成する

愛知大学教育研究支援財団(愛称<sup>アース</sup>AERS)の一年を振り返りました。

[<sup>アース</sup>AERSとは:AICHIUNVERSTY EDUCATION RESEARCH SUPPORT FOUNDATION(愛知大学教育研究支援財団)の  
頭文字を合わせた愛称です。<sup>アース</sup>AERSは、より良い明日(アース)に向かおうと言う思いも込められています。]



## 海外活動の支援

### グローバル活動

#### 1 「海外(タイ・チェンマイ)ボランティアプログラム」を実施して | 名古屋学生課(兼ボランティアセンター) 岩田 正人

2018年8月19日から27日にかけて、本学初の試みとなる、「海外ボランティアプログラム」を実施し、学生26名と一緒に、タイ・チェンマイの孤児院を訪れました。本プログラムを実施するに至った経緯としては、本学では、建学の精神の一つに「地域社会への貢献」がありますが、私としては、将来の日本を担う学生たちに、「日本」という枠の中で留まらず、多感な学生時代にこそ、海外で異文化に直接触れ、アジア諸国の貧困問題等にも目を向けてほしいといった想いを強く抱いたことがきっかけです。本プログラムには26名の学生が参加しました(名古屋校舎19名、豊橋校舎7名)。実際には54名の学生から申込みがありましたが、孤児院の宿舎の定員の都合上、選考せざるを得ませんでした。孤児院(兼学生寮)には、約40名の子供たちがいます。子供たちの背景としては、エイズで両親ともに亡くしてしまった場合もあれば、両親はいますが、故郷が山岳部と山奥のため、家から通える学校がなく、やむを得ず、親元を離れ、学生寮で暮らすケースなど、様々です。子供たちは、両親からの愛情を十分に受けられない環境にあり、さみしい思いを抱えています。今回、本学学生が、現地に出向き、言葉は片言しか通じなかったかもしれませんが、日本の玩具やお菓子等を大量に持参し、身振り手振りで子供たちと全力で遊び、子供たち

を楽しませ、結果、子供たちの最高の笑顔を見ることができたのは、学生にとって、非常に貴重な経験になったと思います。参加した学生からは、「子供同士助け合って笑顔で暮らすたくましさ」に刺激を受けた。世界共通の言語は笑顔だと感じた、「プログラム最終日にバンコクにも立ち寄ったが、同じ国でも格差を感じた。どんな子供にもチャンスは等しく与えられてほしい」といった感想がありました。グローバル化が進む昨今、日本では当たり前とされていることでも、ひとたび海外に出てしまえば、当たり前ではなかったという事実気付かされます。今後、ボランティアセンターの職員として、学生には、インターネットや書籍から得られる情報をそのまま鵜呑みにするのではなく、実際、その場に行き、見て、体験してほしい、そして、本プログラムに参加した学生には、世界的な視点に立って、物事を捉える力を身に付けてほしいと願っています。



#### 2 愛知大学緑の協力隊・ポプラの森

| 校友課(第15次隊 隊長)  
会田 正彦

愛知大学は、大学創立50周年記念事業の一環として1995年から日本沙漠緑化実践協会が主催する沙漠緑化活動に特別隊を編成して参加し、中国内モンゴル自治区クブチ沙漠緑化を目的としたボランティアを派遣してきました。「緑の協力隊」の活動は、本学創立50周年記念事業の一環として始めたもので、2002年の第10次隊の派遣をもって8年にわたる歴史の幕を閉じましたが、このような活動の成果をさらに発展して継承すべく、新たな組織「緑の協力隊・ポプラの森」を2004年から発足させ、地球環境の

保全や広く社会に貢献するための活動を目的に植林ボランティア活動を再スタートして、2017年度までに通算24回ボランティア隊を派遣し、計751名18,495本の植林実績を残しています。25回目となる2018年度は、8/11～8/17に中国内蒙古自治区恩格貝クブチ沙漠へ21名を派遣し、計800本のポプラを植林しました。

※「クブチ沙漠ってどんなところ?」

中国クブチ沙漠は、中国北部中央に位置しており、その面積は広く、東西に細長い形をしています。地形はほとんど高原地帯で海拔1,000から1,500メートルほど、その面積は119万3千平方キロメートルで日本の約3倍のひろさです。





### 学術講演会等「知のミーティング」助成事業

#### 愛知大学地域政策学部「食農環境コース」 開設祝賀シンポジウムの開催

主催：愛知大学みらい塾塾長 土井 義昭  
愛知大学校友センター長 川井 伸一  
日時：2018年9月16日(日)14:00～16:30  
場所：愛知大学豊橋キャンパス記念会館3階小講堂

2018年4月、愛知大学地域政策学部5コース(公共政策、地域産業、まちづくり、地域文化、健康・スポーツ)に加え新たに、「食(消費)」と「農(生産)」と「環境(社会・自然)」を一体のものとして学び、活力ある地域づくりに役立てる、食農環境コースが新設されました。

このコース新設をお祝いし、食農環境に関わる教育の取り組み、これからの農学系の方向性等について議論が進んで地域と

の関係をより強めて行くことができるよう願いを込めて、シンポジウムが開催されました。基調講演では龍谷大学農学部開設に尽力された佐藤研司名誉教授より、「大学と地域の農家が連携していくことの重要性」などについて述べられた他、パネルディスカッションでは、大学関係者・農業法人代表・経済界から6氏が出席し、「知的資源をいかに地域の発展に活かすか、自治体の高等教育政策が求められる」や

「生産者と消費者を結ぶための人材育成を食農環境コースに期待している」などの意見が出されました。予定人員200名に対し270名を超える参加があり、関心の高さがうかがわれました。



#### 「江蘇杯中国語スピーチコンテスト」実施について 国際教育推進委員会江蘇部会長 砂山 幸雄

主催：江蘇国際文化交流センター、南京大学、愛知大学  
日時：2018年12月15日(土)9:30～17:00  
場所：名古屋キャンパス グローバルコンベンションホール

本コンテストはグローバルな舞台に積極的に挑戦し、世界で活躍できる人材育成の一助として、協定校の1つである南京大学および江蘇国際文化交流センターと共催し、高校生、大学生を対象に実施しているコンテストです。大学の部の入賞者には中国屈指の南京大学への留学や、江蘇省の歴史と文化を知るためのツアー参加の機会が提供されます。第4回目となる今年は、高等学校の部の参加対象を北陸地区

に拡大し、同部門への応募者数は過去最高となりました。大学の部は、中部地区9県を対象に実施しました。また、日中平和友好条約締結40周年を記念し、駐名古屋中華人民共和国総領事から「当面の日中関係と地方民間友好交流について」をテーマに、また刈間文敏東京大学名誉教授には「日中間の国民交流に関する日本の課題」をテーマに講演をいただきました。大学の部の入賞者は2019年夏、南京大学1セメ

スター留学や、南京大学4週間留学や8日間江蘇省旅行に参加予定です。本活動が若い世代の日中両国の相互理解と友好関係を深める契機となることを期待しています。(参加者75名 出場者65名)



### その他の「知のミーティング」助成事業

- ・愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)主催 経済環境分野研究会 公開ワークショップ
- ・愛知大学(言語学談話会)主催 公開講座「言語」2018
- ・愛知大学(言語学談話会)主催 公開講座「新約聖書の福音書を朗読するついで」

- ・愛知大学国際問題研究所主催 創立70周年記念シンポジウム「グローバルな視野とローカルの思考—個性とのバランスを考える」
- ・愛知大学同窓会知多支部主催 知のミーティング 知多地方「落語で世情を読む」

## Column

#### 平成30年度学校法人監事研修会

2018年10月29日学校法人京都薬科大学で開催

文部科学省主催の「平成30年度学校法人監事研修会」が、京都薬科大学会場において開催され、研修会講師として、(公財)愛知大学教育研究支援財団の酒井強次常務理事が、文部科学省の要請により、「教育環境の充実のための監査について」と題した講演を行うとともに、同議題のパネルディスカッションでも、パネラーとして意見交換を行いました。少子化、社会経済情勢の変化に伴う経営の見直しや学校教育全体に対する説明責任を求める声も高まっている中、社会からの要請に引き続き適切に対応し、公共性を有する法人としての責務を果たしていくことが重要な課題となっており、文部科学省の検討委員会から監事機能の強化などの提言も出されております。これまでの豊富な経験を基に事例なども踏まえた酒井講師の講演に、熱心な質疑応答が行われ、会場からは、今後の監事職務に早速取り入れていきたいなどの声も聞かれ、大変効果の高い研修会となりました。







### 寄贈品の紹介

#### 中日劇場緞帳がタペストリーに生まれ変わり、愛知大学に展示

2018年3月に閉場した中日劇場（名古屋市中区）で、長年、観客を楽しませていた緞帳（どんちょう）が、5月15日に取り外されました。

この緞帳は、1966年開場の中日劇場で開場35周年を記念して取り付けられた四代目であり、愛知大学名誉博士で日本画家の平松礼二画伯の作品「モネの池に桜」を、高さ9.5メートル、幅21.8メートルの織物に仕立てあげられたものですが、永年の勤めを終え、新たにタペストリーとして生まれ変わりました。

本財団からも授業に向かう学生や来客の方に楽しんでいただけるよう、愛知大学名古屋キャンパス本館研究棟1階展示用と豊橋キャンパス大学記念館2階展示用を寄贈しました。



#### 平松礼二画伯特別展覧会開催

2018年11月17日（土）～24日（土）に、愛知大学豊橋キャンパス大学記念館において、平松礼二画伯の特別展覧会が開催され、日本各地を描いた風景画やフランス・ジャポニズムシリーズ、2000年から11年間担当された月刊「文芸春秋」の表紙画など、画伯自らが厳選した作品が展示されました。また、会期中23日（金）には、画伯の特別講演会「ジャポニズム2018」ー日本・フランス友好160周年ーが開催されるとともに、画伯によるガイドツアーもあり、制作の背景や画伯の思いなどに熱心に耳を傾ける多くの参加者で賑わいました。

本財団では、特別展覧会に協賛、図録を作成し、愛知大学に寄託されている画伯の貴重な作品を収蔵するとともに、防災・防犯対策、温湿度を含め、厳密に管理できるよう、豊橋校舎記念会館に美術品収蔵設備・記念館警備システムを寄贈しました。







## 教育活動の支援

### 「奨学金」授与式

2018年12月1日 愛知大学名古屋キャンパスで実施

名古屋キャンパス講義棟9階L901教室において、2018年度奨学金授与式を開催しました。ひとりでも多くの優秀な学生に支援の手が届き、希望ある未来を目指して勉学に励んでもらうことを願って、合計90名の学生に奨学金を授与しました。式では加藤満憲理事長、山田哲也後援会会長の挨拶、川井伸一学長から激励の言葉をいただきました。受賞した学生を代表して、法科大学院特別奨学生 後藤新太郎さんと留学生の経済学部 王 恵さんから抱負が述べられ、勉学漬けの毎日の中で明日に向かう意欲や日本での就職内定の喜びなどが伝えられました。



#### 奨学金給付実績

|            |     |          |     |                  |     |
|------------|-----|----------|-----|------------------|-----|
| 一般給付奨学金    | 48名 | 知を愛する奨学金 | 5名  | 後援会私費外国人留学生給付奨学金 | 12名 |
| 法科大学院特別奨学金 | 3名  | 後援会学業奨励金 | 22名 |                  |     |

### 「奨励賞」授与式

2019年3月2日愛知大学名古屋キャンパスで実施

社会・文化・学術・芸術・スポーツ・社会貢献などの分野において活躍し、成果をおさめた個人及び団体に対し、その栄誉を称え、一層の励みとすることを目的に懸賞を実施しました。

#### 後援会奨励賞

|            |        |      |             |        |     |
|------------|--------|------|-------------|--------|-----|
| スポーツの部〈団体〉 | 優秀奨励賞  | 5団体  | マネージャーの部    | 奨励賞    | 6名  |
|            | 奨励賞    | 14団体 | 学術・文化の部〈団体〉 | 最優秀奨励賞 | 1団体 |
| スポーツの部〈個人〉 | 最優秀奨励賞 | 9名   |             | 奨励賞    | 1団体 |
|            | 優秀奨励賞  | 16名  | 学術・文化の部〈個人〉 | 優秀奨励賞  | 4名  |
|            | 奨励賞    | 55名  |             | 奨励賞    | 3名  |



#### 同窓会奨励賞

|            |                                                                                            |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 〈個人〉最優秀奨励賞 | 近藤誠宏氏(二科会写真部理事長として写真芸術の振興に尽力)、<br>古市豊裕氏(軟式野球福井県代表としてスポニチ杯優勝)、田中大地氏(香港アジアオープン国際柔道大会で準優勝)    |
| 優秀奨励賞      | 片山理氏(全国実業団対抗テニス大会(団体戦))において優勝、伊熊梨帆氏(サービス接遇検定準1級 優秀賞受賞)                                     |
| 奨励賞        | 伊藤義人氏(青少年の健全育成活動に尽力)、鈴木郁男氏(少年サッカーチーム蒲郡マリナズ設立)                                              |
| 〈団体〉最優秀奨励賞 | 土屋ゼミナール(ビジネスプレゼンテーションコンテスト「外食インカレ2018」において金賞(優勝)獲得)                                        |
| 優秀奨励賞      | 為廣ゼミナール「さんぶんのこ」(名古屋マーケティング・インカレ優勝)<br>土屋ゼミナール(ビジネスプレゼンテーションコンテスト「外食インカレ2018」において奨励賞(4位)獲得) |
| 奨励賞        | 田中ゼミナール「おろしぼんず」(名古屋銀行PBL型企画体験型PG 優秀賞)<br>為廣ゼミナール「mono」(名古屋マーケティング・インカレ準優勝)                 |

#### クラブ愛知賞 (社会貢献の部)

|                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------|
| 〈団体〉愛知大学名古屋教職サークル<br>(子どもの未来応援プロジェクト<br>「一人親家庭の子どもたちへのケア・学習支援」) |
|-----------------------------------------------------------------|

#### 同窓会資格試験 合格者奨励賞

|                             |
|-----------------------------|
| 〈司法試験〉長谷川文哉氏、佐藤浩庸氏、<br>原佑太氏 |
|-----------------------------|

### キャリア教育事業助成金

愛知大学が就職支援プログラムに基づき実施する企業セミナーや人材育成事業等を支援しました。

- ・名古屋国際会議場での企業セミナー(2日間・209社参加) ・OB・OG探訪記(6社訪問・36名参加)
- ・産官学連携型キャリア育成プログラム「Learning+」(5つのクラス・250名参加)

### その他海外研究実習助成、教育活動助成、課外活動特別奨励などの事業を実施

学生が海外を訪問し社会の実情を研究する海外フィールドワークや、各種の研究会や大会へ参加する経費の助成などを実施しています。



## 寄附金名簿

※(順不同・敬称略)

### ◆ 法人

愛知大学後援会  
愛知大学同窓会  
愛知リーガルクリニック法律事務所  
宇都宮工業株式会社  
株式会社うぼん  
株式会社えびせんべいの里  
近畿日本ツーリスト  
株式会社クイックス  
ジャニス工業株式会社  
西濃運輸株式会社  
デュプロ販売株式会社  
税理士法人東海浜松会計事務所  
トーテックフロンティア株式会社  
トクデンコスモ株式会社  
トヨタカローラ名古屋株式会社  
名古屋トヨペット株式会社  
株式会社ナショナルメンテナンス  
ネットトヨタ東海株式会社

藤岡倉庫株式会社  
株式会社フューチャーイン  
株式会社マルホ  
明治電機工業株式会社  
株式会社名大社  
ユーターケー工業株式会社

### ◆ 個人

青野吉伸  
荒木仁子  
伊藤広済  
稲垣信行  
内山隆司  
遠藤精基  
岡村幹吉  
加藤春雄  
加藤満憲  
鎌田史郎

國島芳明  
熊谷友佳理  
久里和美  
甲村洋子  
小林進之輔  
酒井強次  
酒井美代子  
佐藤隆子  
庄田元久  
菅野隆  
菅原宜彦  
杉本みさ紀  
鈴木孝一  
鈴木智  
竹島良祐  
竹島まこと  
多田譲  
唐啓山  
那須國宏  
橋本正洋

土師幸夫  
長谷川信義  
林昇平  
林行孝  
平岩保  
藤井千恵子  
藤岡勢理  
堀田正二  
堀田久富  
堀木ヒロミ  
松井淳子  
松下真由美  
松野博美  
森繁美  
山崎恵子  
山田功  
山本薫  
脇水達生  
和田信敏  
湯山義則

皆様からお寄せいただいた温かいご支援に心よりお礼申し上げますとともに、  
今後とも一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

※本財団に寄附した年会費及び寄附金は、法人税・所得税・名古屋市企業寄附促進特例税制の  
優遇の対象となります。(詳しくは、税務署、名古屋市へお問い合わせください)

## 「感謝状」授与式

2018年6月2日愛知大学車道校舎で実施

公益財団法人愛知大学教育研究支援財団は、発足以来、同窓会及び後援会からの寄附に加え、皆様方からの寄附を始めとするさまざまな形でのお力添えにより、事業を実施してきました。おかげ様にて順調に教育研究支援を進めて参ることができ、心から感謝を申し上げます。こうしたご厚意に報いるべく、「寄附等協力者感謝の集い」を開催し、多額の寄附者に対し、感謝状と記念品を贈呈しました。



### 【感謝状等贈呈者(敬称略)】

内山隆司、宇都宮工業株式会社、株式会社えびせんべいの里、加藤満憲、小林進之輔、デュプロ販売株式会社、明治電機工業株式会社、ユーターケー工業株式会社

### ■ 財団の基本情報

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 名称     | 公益財団法人愛知大学教育研究支援財団            |
| 設立日    | 1965(昭和40)年9月7日(財団法人 愛知大学同友会) |
| 移行日    | 2012(平成24)年11月1日              |
| 代表者    | 理事長 加藤満憲                      |
| 事務局    | 〒461-8641 名古屋市東区筒井2-10-31     |
| 電話番号   | (052)937-8156                 |
| FAX    | (052)937-8157                 |
| e-mail | kouyu@aichi-u.ac.jp           |
| ホームページ | http://www.aichi-u.ac.jp/aers |

2012年11月、より地域社会に貢献する人材の育成を重視した財団として、公益財団法人「愛知大学教育研究支援財団」を設立いたしました。本財団は、愛知大学における学術研究及び教育活動を支援し、もって広く学術の発展と教育の充実、不特定多数の利益の増進に寄与するための事業を実施しています。ひとりでも多くの研究者や学生、ひとつでも多くの事業に助成が活かされることを願って、幅広く応募の機会を開いています。これらの事業は、同窓会費・後援会費を始め、広く一般企業・個人の皆様の会費・寄附を貴重な原資としております。今後とも活動にご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



工業化住宅部品製造・自動車部品製造

“独自の技術力で時代の変化に対応する”



宇都宮工業株式会社

取締役会長 土井 義昭(昭和35年卒)

本社工場 〒441-1205 愛知県豊川市大木町柏木2番地1  
TEL.0533-93-2626(代) FAX.0533-93-5262

新城工場 〒441-1337 愛知県新城市八名井字赤松1番7  
TEL.0536-26-1680(代) FAX.0536-26-1646

HP <http://www.u-m.co.jp>

関連会社

ユーディーケー工業株式会社

〒019-2611  
秋田県秋田市河辺戸島字七曲台120番地18  
TEL.018-882-3388 FAX.018-882-3762

製造直売の香ばしさを残るえびせんべいを  
たくさんの方々に。

伝承されてきた昔ながらの味わいある味覚。  
その微妙な味加減、焼き加減を最新の設備で再現いたしております。  
焼き立ての香ばしいえびせんべいが生まれています。

伝統の味を受け継ぐ  
えびせんべいの里

株式会社 えびせんべいの里

代表取締役 白藤 嘉康(昭和58年卒)

|     |                                                             |
|-----|-------------------------------------------------------------|
| 愛知県 | 美浜本店<工場見学・販売><br>愛知県知多郡美浜町大字北方字吉田流52番地1<br>TEL:0569-82-0248 |
|     | 刈谷オアシス店 愛知県刈谷市東境町吉野55番地<br>TEL:0566-62-7070                 |
|     | セントレア店 愛知県常滑市セントレア1-1<br>TEL:0569-38-0248                   |
|     | 金シャチ横丁店 愛知県名古屋市中区三の丸1-2-4<br>TEL:052-212-5188               |
|     | 魚ひろば店 愛知県知多郡南知多町大字豊浜字相筆地先                                   |
| 滋賀県 | エクスパーサ多賀店<br>滋賀県犬上郡多賀町大字敏満寺西谷66-36<br>TEL:0749-48-2278      |
| 静岡県 | 御殿場店<br>静岡県御殿場市東田中1234番1<br>TEL:0550-84-2248                |

えびせんべいの里 検索

社会の安心 安全 を見守る 防犯システムをサポート

音と光と映像の未来を開く

30年の信頼と実績

日本音楽出版株式会社

代表取締役社長 加藤 満憲(1969年卒)

〒460-0008 名古屋市中区栄2-3-16 アーク栄広小路ビル4F  
TEL(052)212-1091 FAX(052)201-8158

HP <http://jmp-nagoya.com>



Supporting Industry Company

MEIJIDENKI

日本の「ものづくり」を強くする。

製造現場のさまざまなニーズにお応えし、日本の「ものづくり」の発展に貢献してまいります。

明治電機工業株式会社

本社 〒453-8580 名古屋市中村区亀島二丁目13番8号  
TEL/052-451-7661 <https://www.meijidenki.co.jp/>